

丹沢	中川川押出沢廻行	No.067
----	----------	--------

昭和41年7月17日(晴時々曇)

登山靴をまったく使わない山行。恩田はズックの運動靴だったか？ 私のほうはビニールのサンダルでポロシャツ。夏山の準備の一環として登山靴を修理に出したのが主たる理由。靴がなくても行ける所は…と考えた結果、沢登りでもしようかということになった。

新松田から西丹沢行のバスに乗り込む。西丹沢というとどうも大げさに聞こえるが、このバスの終点は中川温泉の奥の箒沢。我ら山族には「箒沢」という昔ながらの呼び名の方がはるかにしっくりする。

名物の箒杉を左手に見送り、中川川の河原に下り、わずかに出合いの堰堤をのぞかせている押出沢へ。10時、第一の堰堤を見ながら軽食と更衣。サンダルを脱いで草鞋に、スラックスを脱いでニッカーとストッキングに。そして10時30分廻行開始。

沢の内容も表側の水無川、四十八瀬川などに比べると一段とスケールが大きい。水量が多く、流れる水の中を登るといふまさしく「沢登り」という感じがする。

草鞋が小気味よく岩に吸い付くが、時にはホールドもスタンスも小さく小刻みで苦勞させられる滝もある。ゴルジュ一杯に広がる垂直の壁を作っているF10、F11、これだけはどうしてもザイルがないと登れない。高巻くと、後は最後の3mの滝。

そして最後のツメは水のなくなった溝状のところを古い杉道らしいものに導かれて、13時に石棚山稜の箒沢乗越に飛び出した。昼食をとって14時に出発。

小川谷を見下ろしながら玄倉へ下った。

玄倉着15時、バスは16時05分までないので、神縄まで歩いて、中川温泉からのバスに乗ることにした。

神縄15時35分着。

元の服装に着替えて、またサンダル履きで新松田から小田急線で新宿へ。

以上

